

在シドニー総領事通信

第 21 回 日本企業の強みをオーストラリアから世界に生かす：NSW 州におけるビジネスの最新動向

令和 2 年（2020 年）8 月 7 日

早くも 8 月になりました。世界各地で、新型コロナウイルスの更なる拡大や第 2 波を防ぐために、懸命な対応が続いています。ここオーストラリアでも、ビクトリア州の感染者急増を受けて、NSW 州は州境閉鎖や濃厚接触者の追跡・隔離などに努力し、これまで市中感染の拡大を食い止めています。当館も、最新動向の把握や情報共有などのコロナ対策に、引き続きしっかりと取り組む所存です。

その一方で、日豪間ではビジネスの動きが加速しています。7 月 9 日、日豪首脳テレビ会談が行われました。安倍総理から、早期の経済回復が求められる今こそ、貿易・投資の促進が必須であり、具体的な日豪経済協力の進展にも期待している旨述べました。両首脳は、両国間でビジネス上必要な人材等の往来を例外的に再開する仕組みの試行のための調整を継続していくこと、可能な限り早期のモリソン首相訪日に向け両国間で調整していくことなどで一致しました。

そして 7 月 29 日、NSW 州政府主催ビジネス・ウェビナー「NSW 州と日本：経済回復への協力」が開催されました。NSW 州政府の閣僚や高官から、本年 2 月の日本・東京商工会議所経済ミッションのシドニー訪問後の様々な進展について説明が行われ、NSW 州と日本の間でビジネス対話のチャンネルが再開されました。

今回の総領事通信では、このウェビナーの概要や、その他の NSW 州におけるビジネスの最新動向について紹介しながら、日本企業が自らの強みをオーストラリアで生かし、世界に役立てていく方途について、皆様と一緒に考えていきたいと思います。



NSW 州政府主催ビジネス・ウェビナー「NSW 州と日本：経済回復への協力」
(2020 年 7 月 29 日)

●NSW 州政府主催ビジネス・ウェビナー

7 月 29 日のウェビナーには、NSW 州政府からスチュワート・エアーズ雇用・投資・観光・西シドニー大臣、ティム・リードン首相内閣府次官、キム・カーテン財務省副次官（貿易・投資・観光）、ジェニファー・ウェスタコット・ウェスタン・パークランド・シティ公社会長（兼豪州ビジネス評議会 CEO）、そして司会のジェフ・ロバーツ州財務省グローバル局長と、NSW 州政府の政策決定に携わる「オール・キャスト」が揃って登壇し、日本との協力推進に向けての意気込みを感じさせました。日本からも、日本・東京商工会議所の協力を得て、約 150 名が出席しました。

私の冒頭挨拶では、①シドニー大都市圏の開発は、日本にとって、オーストラリア連邦・州政府の強いコミットメント、先進国の安定性、経済成長、大規模性を兼ね備えた投資機会であること、②「スマート」「デジタル」「次世代」「先端」「高齢化対応」といった日本の強みを生かしつつ、多文化社会の中で、「多様性」を取り込むことのできる場所でもあること、③コロナ対策で日豪間の往来が制限される中、日豪間の長年の交流・信頼関係というビジネスを進める基盤があることを、参加者の皆様にお伝えしました。



エアロトロポリスの CSIRO 新拠点の完成予想図
(出典：ウェビナー説明資料)

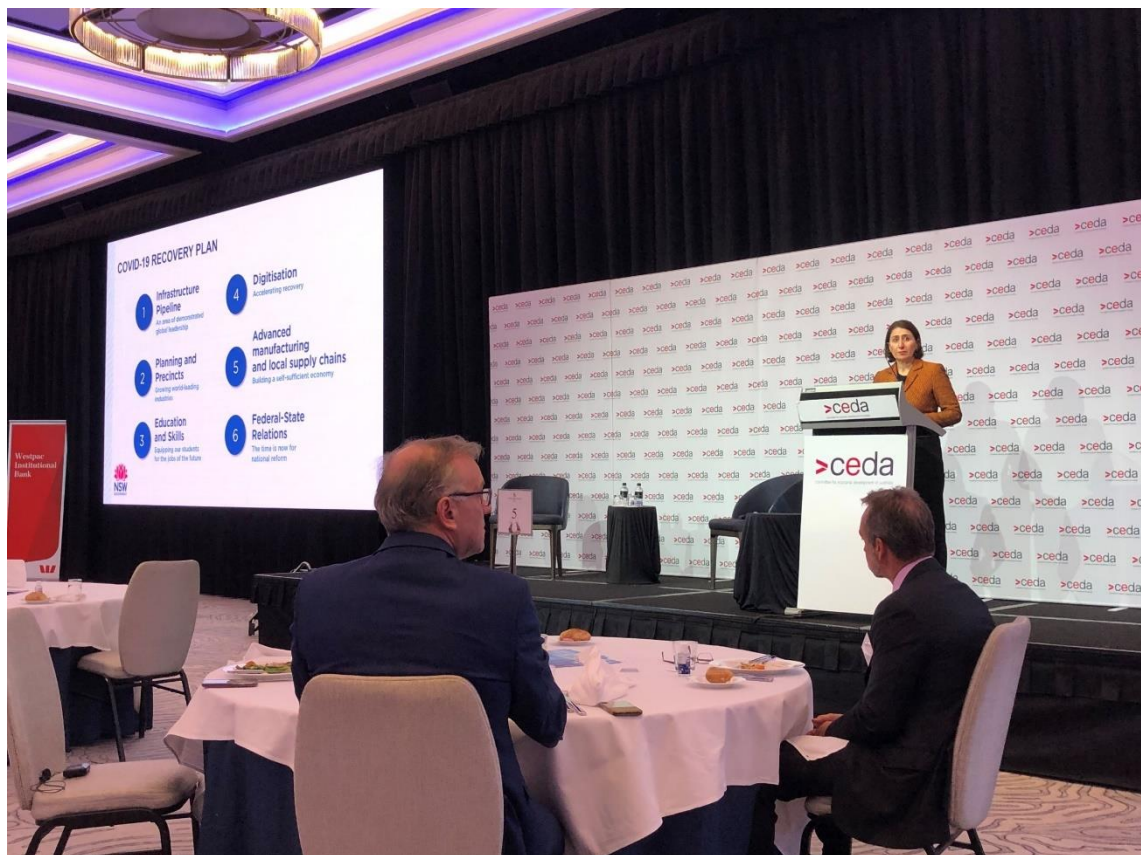
●特別開発地区

今回、エアーズ大臣が特に強調していたのは、シドニー大都市圏の特別開発地区、いわゆる「灯台地区（lighthouse precincts）」での大型案件の進展です。

「エアロトロポリス地区」では、コロナにもかかわらず、新空港建設が2026年の完成に向けて順調に進行中です。先般、シドニーメトロ・西シドニー空港線への110億豪ドルの投資が、当初の着工予定を前倒しする形で発表されました。また、CSIRO（連邦科学産業研究機構）がシドニーの拠点をエアロトロポリスに移転して研究者を集約することも最近発表されました。これは、同地区が先端製造業や産業間協力の未来を担うとの重要なメッセージです。アマゾンが、エアロトロポリス近郊に豪州最大、南半球で最先端の物流ハブを建設することも、ベレジクリアン NSW 州首相が6月末に発表しています。

さらに NSW 州政府は、これまでエアロトロポリス開発を主導してきた西シドニー空港都市公社（WCAA）の管轄区域を拡大し、ウェスタン・パークランド・シティ公社（WPCA）と名称変更して、より広い地域で統合的な都市開発を進めることを発表しています。

コロナで注目が高まっている医療分野では、「ウェストミード医療・イノベーション地区」が豪最大の医療・研究・教育機関の集結地になります。そして、シドニー中央駅直近の「テック・セントラル」には、豪州発の世界有数テクノロジー企業、アトラシアン社がシドニーの同地区に本社を構える予定です。



ベレジクリアン NSW 州首相によるコロナ回復計画の発表
(2020 年 7 月 15 日)

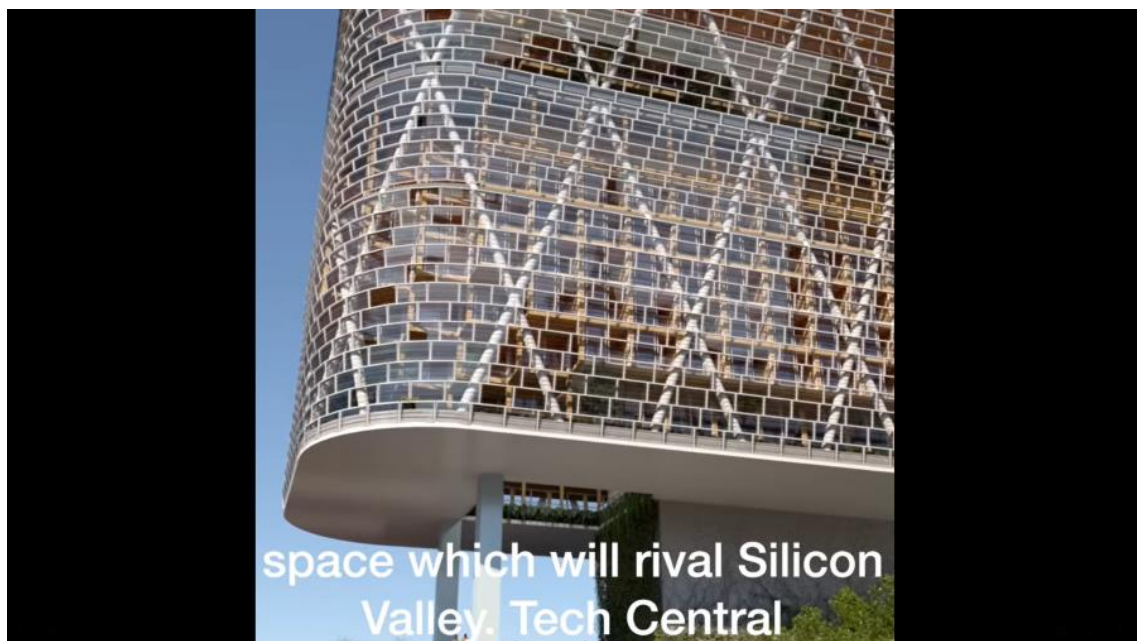
●コロナ回復計画 (COVID-19 Recovery Plan)

リードン首相内閣府次官からは、今月 15 日にベレジクリアン NSW 州首相が発表した「コロナ回復計画 (COVID-19 Recovery Plan)」について説明がありました。

これは六本柱からなり (Six Point Plan)、①インフラ事業への 4 年間 1,000 億豪ドルの投資、②開発許可制度の改革と地区ごとの開発、③教育訓練システムの見直し、④デジタル化の促進とサイバーセキュリティの確保、⑤先端製造業の発展、⑥連邦政府と州政府の連携の強化を打ち出しています。

4 回、計 8 回のウェビナーを開催し、双方向の進出やオンライン上での企業間のマッチングにつなげていく取組を進めます。

私も本年 1 月に、シドニー・スタートアップ・ハブを視察しました。2017 年に NSW 州政府が 3,500 万豪ドルを投資して立ち上げ、シドニー市中心部ウィンヤード駅の 11 階・17,000 m²の建物に主要なアンカー・テナントが入居し、それぞれが多数のスタートアップを擁しています。日立製作所もここでソフトウェア開発のイベント（Hackathon）を開催するなど活用しています。



テック・セントラルのアトラシアン・ビル完成予想図
(NSW 州首相 Facebook)

2025 年にシドニー中央駅近くに立ち上がる予定のテック・セントラルの旗艦ビルは、この約 3 倍に当たる 50,000 m²をスタートアップに割り当てることとなっています。シドニーにおけるスタートアップの飛躍的な発展を見込んでおり、大きな勢いを感じます。NEC は既に、この地区への進出に関心を表明しています。更に、この環境に優しい木造高層ビルの建設には、大林組と豪ビルド社のジョイントベンチャーが、初期受注者参画（Early Contractor Involvement）受注者に選定されました。今後、日本のスタートアップや大企業が次々と進出し、日豪のイノベーション・エコシステムが連動するよう、当館もジェトロとともに後押ししていきたいと思えます。



日本・東京商工会議所経済ミッション歓迎レセプションで挨拶する
ベレジクリアン NSW 州首相（於 NSW 州議会議事堂、2020 年 2 月 6 日）

●日豪ビジネス協力は世界のために

今、世界経済は新型コロナウイルスで激動の中にあります。しかし、変化は同時にチャンスをもたらします。オーストラリア、特に NSW 州でのビジネス機会は、日本企業が自らの強みを世界に生かす新たな一歩となり得るものではないかと感じています。

最近、日本企業について勉強する中で、経営共創基盤（IGPI）代表取締役 CEO・富山和彦氏の『コーポレート・トランスフォーメーション：日本の会社をつくり変える』を読みました。コロナにより加速された破壊的イノベーションの時代に、日本企業の大変容／コーポレート・トランスフォーメーション（CX）を実現するためのビジョンと具体策を提示しています。

日本企業は 1980 年代に「改良型イノベーション力によるキャッチアップ型の競争モデル」で世界を席巻しました。しかし、（a）グローバル化による中国、東南アジア、インドの参入、（b）デジタル化による産業アーキテクチャ・レベル

の競争により行き詰まり、グローバル競争の中で日本経済・企業の地位は低下しました。

今必要なのは「両利きの経営」、すなわち（１）一方で既存事業を「深化」して収益力、競争力をより強固にする経営と、（２）他方でイノベーションによる新たな成長機会を「探索」しビジネスとしてもものにする経営の双方が求められると主張しています。そのために、①本業の稼ぐ力の最大化、②事業と機能ポートフォリオの新陳代謝力向上、③組織能力の多様化・流動化と組織構造の多元化が求められると指摘しています。

日本企業にとってオーストラリア、特にシドニー大都市圏の大規模スマートインフラ開発は、この「既存事業の深化」や「イノベーションによる新たな成長機会の探索」を可能とし、「事業と機能ポートフォリオの新陳代謝」を行うための様々な選択肢を提供するものです。更に、日本企業が多文化主義（multiculturalism）と多様性（diversity）を自らの組織に取り込み、組織文化を強くするための格好の場でもあります。

日本企業が既存の枠に閉じこもることなく、良いパートナーと良い環境を得て持続的に発展することは、日本企業のみならず、日本全体、そして世界にとっても大事なことです。ベレジクリアン NSW 州首相は、2 月の日本・東京商工会議所経済ミッション歓迎レセプションの挨拶で、「日豪のビジネス協力は、世界のためである（for the planet）」と述べ、私は非常に感銘を受けました。この NSW 州のシドニー大都市圏開発やスタートアップ・イノベーション推進の取組が、日本企業の世界展開と連動することで、日豪両国、更に世界に大きなインパクトを与えられるよう、当地から最大限努力する所存です。

日豪首脳テレビ会談の開催（2020 年 7 月 9 日）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/ocn/au/page6_000402.html

NSW 州政府主催ウェビナー「NSW 州と日本：経済回復への協力」の開催

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_ja/20200729webinar.html

NSW 州コロナ回復計画（英語）

<https://www.nsw.gov.au/covid-19-recovery-plan>

ジェトロがオーストラリア貿易投資促進庁と MOU を締結（2020 年 1 月 10 日）

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/01/2fdc6342908347d5.html>

オーストラリアのスタートアップ・エコシステムをひもとく（JETRO 連載）

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2020/ed22734acac209d2.html>

日本のイノベーション・エコシステム（JETRO 本部）（英語）

<https://www.jetro.go.jp/en/jgc/reports/2020/6790871cde54c518.html>

シドニー・スタートアップ・ハブ（英語）

<https://sydneystartuphub.com/>

西シドニー開発関連情報とりまとめ（在シドニー日本国総領事館ウェブサイト）

https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_ja/WesternSydneyDevelopment.html

ニューサウスウェールズと日本ーより良い世界に向けての幅広い協力関係の推進ー（在シドニー日本国総領事館ウェブサイト）

<https://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/files/100078788.pdf>

富山和彦（2020）『コーポレート・トランスフォーメーション：日本の会社をつくり変える』文藝春秋。

チャールズ・オライリー、マイケル・タッシュマン（2019）『両利きの経営：「二兎を追う」戦略が未来を切り拓く』東洋経済新報社。

（以上）